



TITLE:

全勝の凱歌の中より (日食報告號)

AUTHOR(S):

山本, 一清

---

CITATION:

山本, 一清. 全勝の凱歌の中より (日食報告號). 天界 1936, 16(184): 379-381

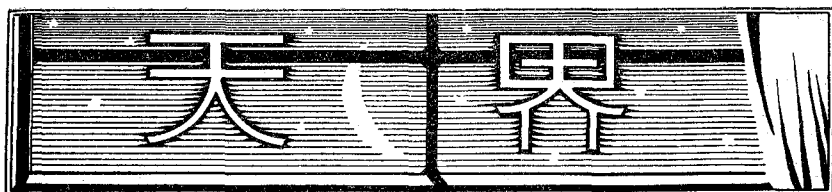
ISSUE DATE:

1936-07-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167279>

RIGHT:



第184號 (第 16 卷)

日 食 報 告 號

(昭和11年) 8 月 號

## 全勝の凱歌の中より

山 本 一 清

われ等、花山の同志が、燃ゆる希望を天運に托して、空前の計畫を愈々實行にまで運び得た去る 6 月 19 日の皆既日食觀測は、果然、下の如き結果となつて、まづ花山急報第 216 號は之れを報じた。

花山天文臺急報 第 216 號 1936 年 6 月 20 日

花山日食觀測隊より快報來る！ (受信順)

北 海 道 中 頓 別 (第 2 觀 測 隊)

“晴天 觀測ハ成功セリ 小山隊”

„ 遠 輕 (第 3 觀 測 隊)

“雲晴レ コロナ寫眞成功ス 高城”

„ 枝 幸 (第 1 觀 測 隊)

“多少ノ雲アリシモ 豫定ハ遂行セリ 竹田”

シベリヤ オムスク (第 5 觀 測 隊)

“Eclipse clear success Yamamoto”

(日食ハ晴天ニテ成功 山本)

滿 洲 國 呼 瑪 (第 4 觀 測 隊)

“天佑ニヨリ 無事觀測ヲ了ヘタルハ 終生ノ欣快トスル所ナリ 荒木俊馬”

實に、上記の如く、我等の 5 隊は、5 隊全部が、晴天 (又は少なくとも其れに近い好天氣) に恵まれて、豫定のプログラムを遂行し得たのであつて、此の如き成績は、ひろく學會にも (又、永き學史上にも) 例の無きものであると言ふべきか!! およそ日食觀測遠征隊が世界の各地に出張する場合、約半數は曇

天のため観測不能に終るのが普通である。現に筆者自身も、今まで4回の日食遠征を試みたうち、2回は曇られ、2回は晴れた経験を有つ。して見ると、こんど吾が5隊が皆晴天に恵まれたといふことは、或る一人が5回の遠征をして、全部晴天を見たのと同じ幸運である。

しかしながら、日食観測の研究の本義は、言ふまでもなく、今後、各天文臺に於ける材料の整理研究にあるのであるから、観測其のものが晴天に恵まれたといふことは、吾人の宇宙に對する大なる光榮であると同時に、又、大なる責任を自覺しなければならないわけである。

此の機會に、吾々は、日ソ兩國内に於いて、惜しくも曇りのために日食を観測し得なかつた同勞者の心境に無限の同情を禁じ得ないものである。(滿洲國に於ける観測隊は、事實上、少しも天氣に煩はされず、皆、好成績を収めた由で、慶賀のほかは無い。)

こんどの日食観測は、國內國外共に、副産物とも言ふべきものが非常に多かつた。一般民衆が學術に對する理解を深めたことは其の最も著しい一つではあるが、尙ほ其のほか、各観測地に於いて、地方民と學者との間に實に親しみある厚意が交換せられ、殊に、日滿ソ三國共に、それだれ、外國よりの観測者たちが、各地方民から受けた親切と厚意とは、國際親善のために貢獻した結果が極めて大きいことを注意しなければならない。現に我が國に來朝したストラトン教授等の英國隊が北海道や東京や京都其の他の官民より受けた好印象は、一行の人々が皆始めて我が日本の土を踏んだ人々であるだけに、非常に強いものであり、又、中華民國の南京・北平・上海等から珍らしくも揃つて來朝された6人の學著たちも、更に、はるばる中歐チエコスロヴキヤ國より來朝された3人、澳國及びポーランド國より各々1人づつの來朝者も、皆わが日本の人と土地とに接して、國際的の良好な親善關係を感得された模様である。——此等は、永く我が國各地の人々にも記憶されること、恰も40年前の枝幸に於けるトド教授一行の場合と同様であるだろうと豫想されて、欣快に堪えない。

純粹に學術研究上から見て、今回の日食観測事業が吾人に齎した効果は、勿論、頗る大きい。観測者中、之れが初めての経験であつた多くの若き學者

たちも、今まで幾度も日食を経験した老練者も、それぞれ何等かの大きい教訓と資料とを獲たことは疑なき所であるし、其等は直接に今後の日食観測計畫に参考となることが多大である。水平望遠鏡と赤道儀望遠鏡との優劣、大小のシロスタトの運用に關する新経験、分光機や偏光鏡に關する器械の性能的判斷、寫真感光板の取り扱ひについての新知識、觀測地の選定や、運搬、通信等に關する豫備知識と實際經驗との差違、地盤の問題、風の妨害、觀測室の設計の比較的研究、そのほか、コロナの明るさ、プロミネンスの形と光度、寫真觀測と眼視觀測との比較研究、専門家とアマチュアとの相互貢獻など、——數へれば、限りない多方面の重大問題について多くの暗示を得た。

前にも書いたことであるが、去る6月の日食は近年我が國內に於いて見えた日食中、最も容易に觀望し得るものであつたから、諸學校關係者や、一般の社會人など、天文教育の立場から此の機會を利用し得た人々は多かろうと思ふ。平常、只、机上に於いて論議し、又は寫真や出版物中の複製によつてコロナといふものの片影を知つてゐた人々が、こんどは目のあたり此の美觀に接した印象は、或は學術を超越して、永久に腦裏に深く何ものか貴いものを残したことと思ふ。折から、全世界の國家社會にみなぎる非常時らしい空氣も、さることながら、宇宙の大より見れば、人界の事は皆とるに足りない些事に過ぎず、萬物を超越する天地の諸現象は、此の世の雜音を超えて、更に高く吾人の心を惹く所以を人々に教へたに違ひない。天文の新使命は茲にあるのである。

### 加古天文講習會 (一般聴講歡迎)

期 間 8月22日、23日 (時間未定)

講 師 『近世天文學』 理學博士 山本一清氏

實地指導 (夜間天體觀測) 山本一清博士、高城武夫氏

會 場 兵庫縣加古郡 高砂尋常高等小學校

會 費 金 1.00圓

主 催 東亞天文協會・兵庫縣加古郡教育會